

資 料

この調査は、課題別研究「聴覚・言語障害児を地域で一貫して支援するための体制に関する実際研究」（研究代表者：小林倫代、研究分担者：小田侯朗、藤井茂樹、久保山茂樹）の一部として実施するものです。

記入方法について

- この調査は全国の傾向をみるためにのみ使用され、個々の学級や学校の事例として使用されることはありませんので、実態をそのまま記入してください。
- この調査では、便宜的に下記の名称を用いています。回答において下記の分類と名称にご留意下さい。尚、東京都の通級指導学級は 教室 とお考え下さい。
学級・・・難聴学級、言語障害学級 教室・・・通級指導教室
- 調査用紙は難聴・言語障害学級・通級指導教室設置校（園）1校（園）につき1部を送付しています。「同一校に複数の学級や教室が設置されている」「同一校内に他校（園）の学級が設置されている」「センター等にまとめて設置されている」などの場合でも、複数の学級・教室を合わせて記入することを原則としています。ただし、学級・教室運営の実態や回答のしやすさを考慮し、学級・教室ごとに別の用紙に回答していただいてもかまいません。その場合恐縮ですが、この用紙をコピーして回答下さるようお願いいたします。
- 記入は、平成18年9月1日現在 で、お願いします。
返送は、平成18年9月末日 を目安に、同封の返信用封筒にてお願いします。

ご不明の点は、下記までお問い合わせください。

国立特殊教育総合研究所 教育支援研究部 久保山茂樹
電話：046-839-6855 Fax：046-839-6908 電子メール：kuboyama@nise.go.jp

調査項目 A 基本的統計資料

A-1 所在地

学校所在地を都道府県または政令指定都市でお書き下さい。

都・道・府・県・市

A-2 学級・教室の設置状況や担任者数

下の表のうち、校内に（またはセンター等内に）設置されている学級・教室について○印をして下さい。学級・教室担当のうち、小中学校等の教員（常勤及び非常勤）の人数を「教員」の欄に、それ以外の職員（言語障害専門職・介助員等）の数を「教員以外」に記入して下さい。

小学校

学級・教室の種類	設置	教員	教員以外
難聴特殊学級		名	名
通級指導教室(難聴)		名	名
言語障害特殊学級		名	名
通級指導教室(言語障害)		名	名

中学校

学級・教室の種類	設置	教員	教員以外
難聴特殊学級		名	名
通級指導教室(難聴)		名	名
言語障害特殊学級		名	名
通級指導教室(言語障害)		名	名

幼児の教室

学級・教室の種類	設置	教員	教員以外
幼児のきこえの教室		名	名
幼児のこたばの教室		名	名
上記以外の幼児の教室		名	名

A-3 指導対象幼児・児童・生徒数

(1) 指導対象幼児・児童・生徒の在籍・計数等について

平成18年9月1日現在、指導している全ての幼児・児童・生徒について、下の表に記入して下さい。

- ・特殊学級の場合は、正式な指導対象児（難聴・言語障害学級在籍児、通級による指導の対象児）か、それ以外か（教育相談等）を、分類して人数を記入して下さい。
- ・通級指導教室の場合は、指導対象児として計数しているか否かを分類して人数を記入して下さい。
- ・幼児の教室単独の場合は通級指導教室の「計数している」に人数を記入して下さい。

		正式な指導対象児		それ以外
		在籍児	通級児	
難聴学級	幼児			
	小学生			
	中学生			
	高校生			
	高卒以上			
	合計			
言語障害学級	幼児			
	小学生			
	中学生			
	高校生			
	高卒以上			
	合計			

			計数して	計数して
			いる	いない
通級指導教室	難聴	幼児		
		小学生		
		中学生		
		高校生		
		高卒以上		
		合計		
通級指導教室	言語障害	幼児		
		小学生		
		中学生		
		高校生		
		高卒以上		
		合計		

(2) 指導対象幼児・児童・生徒の障害等について

平成18年9月1日現在、指導している全ての幼児・児童・生徒の障害について、該当する欄に人数を記入して下さい。統計処理上児童・生徒1人について1障害に該当するものとして記入して下さい。難聴は、良耳の平均聴力レベルで記入して下さい。なお、ここでは正式な指導対象児か否か、計数しているか否かは問いません。

区分	週1回以上の定期的指導						その他の指導					
	幼児	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生	高以 卒上	幼児	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生	高以 卒上
難聴	40dB未満											
	40dB～59dB											
	60dB～79dB											
	80dB～99dB											
	100dB以上											
	不明											
言語障害	構音障害											
	口蓋裂											
	吃音											
	言語発達の遅れ											
その他												

(3) 巡回による指導について

平成18年9月1日現在、巡回による指導をしている幼児・児童・生徒がいれば、あてはまる欄に人数を記入して下さい。

- ・担当者が指導対象児の在籍校に出向く形態で指導をしている・・・・・・・・・・ 人
- ・担当者も指導対象児も在籍校以外の場所に出向く形態で指導をしている・・・・・・ 人
- ・上記以外（具体的に ） 人

(4) 発達障害等について

平成18年9月1日現在、指導している全ての幼児・児童・生徒についてあてはまる欄に人数を記入して下さい。

	医師の診断や 専門機関の判定等がある						診断や判定等はないが 担当者が評価してあてはまる					
	幼 児	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生	高 卒 以 上	幼 児	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生	高 卒 以 上
LD(学習障害)												
AD/HD(注意欠陥/多動性障害)												
自閉症												
高機能自閉症												
アスペルガー症候群												
広汎性発達障害												

(5) 卒業後の支援について

平成18年3月に卒業した幼児・児童・生徒は、卒業後、どこで支援を受けていますか。あてはまる欄に人数を記入して下さい。

① 幼児期から小学校段階への移行にあたって

特別な支援なし	人
言語障害学級	人
言語障害通級指導教室	人
難聴学級	人
難聴通級指導教室	人
この学級・教室で継続	人
学校以外の医療機関等	人
知的障害学級	人
情緒障害学級	人
情緒障害通級指導教室	人
知的障害学級＋言語通級	人
情緒障害学級＋言語通級	人
聾学校小学部	人
養護学校小学部	人
その他 ()	人
その他 ()	

② 小学校段階から中学校段階への移行にあたって

特別な支援なし	人
中学校言語障害学級	人
中学校言語障害通級指導教室	人
中学校難聴学級	人
中学校難聴通級指導教室	人
この学級・教室で継続	人
学校以外の医療機関等	人
中学校知的障害学級	人
中学校情緒障害学級	人
中学校情緒障害通級指導教室	人
中学校知的障害学級＋言語通級	人
中学校情緒障害学級＋言語通級	人
聾学校中学部	人
養護学校中学部	人
その他 ()	人
その他 ()	人

③ 中学校段階以降

特別な支援なし	人
この学級・教室で継続	人
学校以外の医療機関等	人
聾学校高等部	人
養護学校高等部	人
福祉的就労	人
その他 ()	人
その他 ()	人

調査項目B 指導内容・方法

B-1 指導形態など

(1)指導形態(教室の原則として、該当するもの1つの記号に○印をして下さい)

- a:ほとんど1対1の指導である
- b:1対1の指導を中心とし、小グループによる指導を併用している
- c:ほとんど小グループによる指導である
- d:小グループによる指導を中心とし、1対1の指導を併用している
- e:その他_____

(2)指導時間(それぞれに該当する人数を記入して下さい)

指導している子ども全員について、この教室での指導時間が

- a:主に、通常の学級等の授業終了後である子ども.....__人
- b:主に、通常の学級等の授業時間中のいずれかである子ども.....__人
- c:その他_____人

(3)設備・備品について(現有する備品に○印をし、()に検査名等を記入して下さい)

- a:オージオメータ b:騒音計 c:音場聴力検査装置 d:補聴器特性検査装置
- e:鼻息鏡 f:発音発語訓練装置 g:発音直視装置 h:構音検査用具
- i:発達検査・知能検査()

B-2 指導について

(1)難聴児の指導について、課題になっていることを記入して下さい

(2)言語障害児の指導について、課題になっていることを記入して下さい。

(3)「その他」(2ページ「A-3(2)」)の幼児・児童・生徒について、障害状況の概略を記入して下さい。

(4)「その他」の幼児・児童・生徒の指導上課題となっていることについて記入して下さい。

調査項目C 学級・教室の経営等

C-1 学級・教室の経営について

(1)学級・教室の経営上課題になっていることがらを3点まで記入して下さい。

- ・
- ・
- ・

(2)平成18年3月31日に出された「通級による指導の対象とすることが適当な自閉症者、情緒障害者、学習障害者又は注意欠陥多動性障害者に該当する児童生徒について(通知)」(17文科初第1178号)によって、学級・教室の経営や校内の体制に変化はありましたか。

C-2 校内での役割について

(1) 校内の特別支援教育の体制での役割

学級・教室の設置校の特別支援教育体制で指名されている役割について、該当するものに○印をつけて下さい (担当者が複数いる場合は、担当者全員についてあてはまるもの全てに○印をつけて下さい)。

- ①特別支援教育コーディネーター ②校内支援委員会の委員 ③校内就学指導委員会の委員
④その他 ()

(2) 通常の学級との連携について

下記のうち行っていることすべてに○印をつけ、具体例を記入して下さい。

- a : 通常の学級の授業に参加し、指導対象児への個別的な支援を行う
(具体例:)
- b : 通常の学級の授業に参加し、指導対象児以外の児童・生徒への個別的な支援を行う
(具体例:)
- c : 通常の学級で、障害に関する授業を行う
(具体例:)
- d : 通常の学級の担任から子どもの指導について相談を受ける
(具体例:)

(3) 難言学級・教室が設置されていることが学校にとってどのような意義や利点があると思いますか。

C-3 地域での役割について

(1) 地域の特別支援教育の体制での役割

地域の特別支援教育の体制で果たしている役割について、該当するものに○印をつけて下さい (担当者が複数いる場合は、担当者全員についてあてはまるもの全てに○印をつけて下さい)。

- ①地域特別支援教育コーディネーター ②地域の就学指導委員会の委員
③地域の専門家 (巡回相談) チームの委員 ④乳幼児健診の相談員
⑤就学時健診における言語スクリーニング ⑥その他 ()

(2) 地域の他機関との連携について

①学級・教室の指導対象児の検査実施について

以下の検査等について、どの機関が実施しているか該当するところに○印をつけて下さい。

	学級・教室 で実施	他機関等に依頼					
		医療 機関	療育 機関	聾学校 等	教育セン ター等	大学・ 研究所等	補聴器 業者等
聴力検査							
音場における聴力検査							
補聴器の特性検査							
補聴器フィッティング							
知能検査・発達検査							
構音検査							

②他機関に在籍する幼児・児童・生徒の検査実施について

以下の検査等について、他機関に在籍する幼児・児童・生徒について依頼や紹介を受けて実施しているものがあれば該当するところに○印をつけて下さい。

	依頼・紹介元の機関						
	医療 機関	療育 機関	校内 通常学級	校内 特殊学級	他校 通常学級	他校 特殊学級	その他 (具体的に)
聴力検査							
音場における聴力検査							
補聴器の特性検査							
補聴器フィッティング							
知能検査・発達検査							
構音検査							

(3)学校以外の機関（医療機関・福祉機関等）との連携において課題があればお書き下さい。

C-4 幼児の指導について（幼児の指導や相談をしている場合のみお答え下さい）

(1)指導や相談の開始について

①何歳ぐらいから相談や指導をしていますか。

相談は_____歳ぐらいから 指導は_____歳ぐらいから

②教室への紹介者はどの機関（健診等）でしょうか、あてはまるもの全てに○をつけて下さい。

- a. 1歳半健診 b. 1歳半健診後の教室 c. 3歳児健診 d. 3歳児健診後の教室
e. その他の健診（ ） f. 医療機関の医師 g. 医療機関の言語聴覚士
h. 幼稚園 i. 保育所 j. 障害児療育機関 l. 教育委員会
m. 保護者から直接
n. その他（ ）

(2)地域の乳幼児健診に参加している場合、参加しているものに○印をつけて下さい。

- ① 1歳6ヵ月児健診の相談員 ② 1歳6ヵ月児健診の事後指導スタッフ
③ 3歳児健診の相談員 ④ 3歳児健診の事後指導スタッフ
⑤ その他の乳幼児健診（ ）の相談員 ⑥ その他の乳幼児健診（ ）の事後指導スタッフ

(3)幼児期の指導の後、小学校の学級・教室に就学する際の引き継ぎはどのようにしていますか。

- ①難言学級・教室への引き継ぎ

②通常の学級（在籍学級）への引き継ぎ

(4)幼児担当者について

①幼児担当者（幼児の担当として配属された職員）はいますか。

いる（ 名） いない（小学校教員が担当）

②幼児担当者の所属はどこですか。（例：○○幼稚園、△△町役場××課、□□村教育委員会）

③幼児担当者の職種についてあてはまるものにレ印をし、人数等を記入して下さい

- ・ 幼稚園教諭 【 常勤（ 名） ・ 非常勤（ 名）（週に_____回）】
・ 保育士 【 常勤（ 名） ・ 非常勤（ 名）（週に_____回）】
・ 言語聴覚士 【 常勤（ 名） ・ 非常勤（ 名）（週に_____回）】
・ その他（ ）
 【 常勤（ 名） ・ 非常勤（ 名）（週に_____回）】

(5)幼児の指導や教育相談をする場の名称を記入して下さい。

（例：○○小学校幼児部、△△町幼児ことばの教室）

(6)幼児の教育相談や指導をする利点や課題についてのお考えをお書き下さい。

- ・利点

・課題

C-5 中学生以上の指導について

(小学校で中学生以上を指導している場合、中学校で高校生以上を指導している場合に記入して下さい)

(1) 中学生以上の対象児・者をどのような手続きで受け入れていますか。

(2) 中学生以上の対象児・者の指導方法や内容について課題があればお書き下さい。

C-6 保護者との連携について

(1) 学級・教室で保護者と連携しながら実施している活動があればお書き下さい。

(2) 親の会活動について、該当する記号に○印をして下さい。

① 親の会の組織について

- a: この学級・教室の対象児を中心とした親の会がある
- b: 他校の学級・教室と合同の親の会がある
- c: 上記の a, b の両方にあてはまる
- d: 現在、学級・教室としては親の会活動には関与していない

② 親の会の運営について

- e: 保護者が主に活動を計画・運営し、教師は補助的な役割を果たしている
- f: 教師が主に活動を計画・運営し、保護者はこれに参加している
- g: 活動内容によって、上記の e, f の両方がある
- h: その他 ()

③ 親の会の運営等について課題があればお書き下さい。

(3) 保護者との関わりについて課題があればお書き下さい。

調査項目 D 勤務・研修等について

D-1 勤務について

現在の勤務時間や勤務内容などについて課題があればお書き下さい。

D-2 研修について

(1) 学級・教室の担当者全員について、難言教育の経験年数、大学・研究所・センター等における難聴・言語障害教育に関する研修経験などについて下記に記入して下さい。

	難言教育の 経験年数	難言教育を初めて 担当する際の研修経験	難言教育を担当 する中での研修経験	難言教育以外の特別支援 教育に関する研修経験
担当者A	年目	[有 ・ 無]	[有 ・ 無]	[有 ・ 無]
担当者B	年目	[有 ・ 無]	[有 ・ 無]	[有 ・ 無]
担当者C	年目	[有 ・ 無]	[有 ・ 無]	[有 ・ 無]
担当者D	年目	[有 ・ 無]	[有 ・ 無]	[有 ・ 無]
担当者E	年目	[有 ・ 無]	[有 ・ 無]	[有 ・ 無]
担当者F	年目	[有 ・ 無]	[有 ・ 無]	[有 ・ 無]
担当者G	年目	[有 ・ 無]	[有 ・ 無]	[有 ・ 無]
記入例1	3年目	[有 ・ 無]	[有 ・ 無]	[有 ・ 無]
記入例2	9年目	[有 ・ 無]	[有 ・ 無]	[有 ・ 無]

(2) 難言教育に関する研修の内容をお書き下さい

調査項目E 自由記述

難聴・言語障害教育の現在・将来などについて感じていることをお書き下さい。

また、その他にご意見がありましたらお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

下記に、学校名や記入された先生のお名前を記入いただければ幸いです。差しつかえない範囲でご協力お願い申し上げます。

学校名 _____ 記入者 _____